

特集「娯楽の離散数理」の編集にあたって

伊藤 大雄^{1,a)}

娯楽数学は遅くとも数百年前には始まり、その後プロアマ問わず数多の人々を魅了し続けて来たが、ここ数十年で急速な発展を遂げ、今や数学および計算機科学においてきわめて重要な存在を占めている。

本特集号の編集委員長は、「組合せゲーム・パズル」のワークショップ*1を2005年から毎年度開催しており、それは年を追うごとにさらに盛り上がりを見せており、この分野の特集号の需要を実感して来た。そこで2012年に最初の特集号である「パズルの数理」が本誌で企画され、大変な成功を納め、引き続き翌2013年にも同名の特集号が発行された。そして今回、3回目の特集号が、守備範囲をやや広げるために名称を「娯楽の離散数理」と変更した上で発行される運びと成った。

委員長の非力を補うために、編集委員会は本分野で世界的に活躍する6名の学者にご参加願った。今回の特集号には17本（うち3本が日本語）の論文が投稿され、慎重な査読を経て、13本（うち1本が日本語）が選出された。採択率は7割6分5厘である。採択論文の内容は、ペンシルパズル、詰込みパズル、単語ゲーム、チェス、三並べの変形、ケーキ分割問題、多面体、イラストなどである。

本特集号がかくも成功を納めたことによって、本分野の特集号の必要性をさらに強く確信することとなった。よって今後とも定期的に（多分隔年で）企画していけたらと希望している。少しでも多くの方々が、これに刺激されて、本分野の研究に参入され、今後の特集号に投稿されることを望む。

娯楽は人類の根本である。なぜならば、我らは、ヨハン・ホイジンガの看破したごとく「ホモルーデンス（遊ぶ人）」なのであり、娯楽の追求が人類を発展させて来たのだから。さあ、皆で娯楽数学と娯楽計算機科学を楽しもうではありませんか！

末筆ながら本特集号に投稿して下さったすべての著者と、多大なるご奉仕をして下さった査読者各位と、以下にお名前を記させていただいた編集委員各位に対して、心より感謝の意を表するものである。ありがとうございます。

「娯楽の離散数理」特集号編集委員会

- 編集長
伊藤大雄（電気通信大学）
- 幹事
堀山貴史（埼玉大学）
- 編集委員
上原隆平（北陸先端科学技術大学院大学）
宇野裕之（大阪府立大学）
岡本吉央（電気通信大学）
小野廣隆（九州大学）
真鍋義文（工学院大学）

¹ 電気通信大学情報理工学研究科
School of Informatics and Engineering, The University of
Electro-Communications, Tokyo 182-8585, Japan

a) itohiro@uec.ac.jp

*1 <http://www.alg.cei.uec.ac.jp/itohiro/Games/>